

やま ところ おり やまし

# 語り部の里からの報告

大和郡山市 古事記1300年紀事業 事業報告集 2012.1.1~2012.12.31



人間って

すごいじゃないか。

語り継ごうよ、

語り部の里から。

大和郡山市 古事記1300年紀事業 実行委員会



## 語り部の里からの手紙

大和郡山市長 上田 清

拝啓

『人間ってすごいじゃないか。語り継ごうよ、語り部の里から。』

実行委員会による型破りの呼びかけで始まった古事記1300年紀事業は、貴殿を初め、関わっていただいた数え切れない多くの皆様方のおかげで、有終の美を飾ることができました。

ここにあらためて、心から感謝申し上げます。

さて、オープニングイベント『古事記1300年 新たな物語りの始まり』では石見神楽が圧巻でしたね。古事記に秘められた魅力、底力、迫力に惹きつけられてしまいましたが、動きのない「物語」ではなく、あらゆる方々がそれぞれに主役となって未来に語り継ぐ「物語り」のスタートを切ることができたように思います。

以後、1年間を通じて取り組んでいただいた各事業については、本報告書で振り返っていただくとして、印象に残っていることをあげるとすれば、まず、「人間ってすごいじゃないか」の本当の「すごさ」が子どもたちに、あるいは現代人に伝わっているのだろうかという素朴な疑問でした。

文明の発達を謳歌している私たちは、優れた電化製品やパソコンに囲まれているだけで、人間という基本的な部分はそんなに大きく変わったとは思えないのですが、いつかどこかでいつのまにか勘違いをしてしまったのではないのでしょうか。

市民劇団の熱演、大胆な発想で取り組んでいただいた「古事記と宇宙」、毎回大盛況だった「語り部口座」さらには「ふるさと語り部エッセイ」などを通じて強く感じたのは、何世代にもわたって伝えられてきた知恵や文化、技術や伝統の「すごさ」にふれることの大切さ、そしてその感動を次の世代も含めて広く発信し、共感の輪を広げることこそが、「古事記1300年紀事業」の意義ではないかということでした。

ある語り部口座での問いかけも、強く印象に残っています。

日本の子どもたちが描く山はなだらかで、緑に包まれているけれども、多くの国では、山といえば岩山、ごつごつとしていて全体が茶色。そのことは、わが国の文化にどのような影響をもたらした？

語り継ぐことの大切さについては、これからも発信し続けてまいりますので、今後ともよろしく願い申し上げます。

ありがとうございました。

敬 具



大和郡山市  
古事記1300年紀事業

『人間ってすごいじゃないか。  
語り継ごうよ、語り部の里から。』

～ 開催趣旨と事業計画 (概要) ～

大和郡山市稗田町出身の稗田阿礼は、その抜群の記憶力を活かして古代の様々な伝承を記憶し、語り、日本最古の歴史文学書「古事記」の編さんに携わり歴史に名を残しました。1300年の時が流れた現在、世の中に情報が氾濫し、「語る」こと「語り継ぐ」ことの大切さが忘れられようとしています。また、核家族化が進み、家庭における「語り部」の機能が希薄になっているといえます。そこで、2012年（平成24年）を「古事記1300年紀」とし、阿礼生誕の地「語り部の里 大和郡山」から「語る」こと「語り継ぐ」ことの大切さを、そして新たな物語りを全国に発信します。

開催期間： 平成24年1月～平成24年12月

主 催： 古事記1300年紀事業実行委員会（事務局：大和郡山市総務部企画政策課）

共 催： 大和郡山市・大和郡山市教育委員会

後 援： 奈良県・NHK奈良放送局・奈良テレビ放送(株)・奈良新聞社・奈良日日新聞社・朝日新聞奈良総局・産経新聞奈良支局・共同通信奈良支局・毎日新聞奈良支局・読売新聞奈良支局・日本経済新聞社奈良支局・一般財団法人奈良県ビジターズビューロー

# Contents

## 上田市長挨拶 語り部の里からの手紙

大和郡山市古事記1300年紀事業

～開催趣旨と事業計画(概要)～

### 1月

5日(木)～2月19日(日) 古事記関連ブックフェア ..... 7

### 2月

4日(土) オープニングイベント  
『古事記1300年 新たな物語りの始まり』 ..... 4  
『上田忠男 古事記コレクション展』 ..... 6  
4日(土) 第16回こおりやま歴史フォーラム ..... 7  
5日(日) 第8回記憶力大会 ..... 7  
6日(月)～「ふるさと語り部エッセイ」  
—今、語り継いでおきたいこと—の募集 ..... 14

### 3月

3日(土) 当世語り部口座VOL.1 馬場 基さん ..... 8

### 4月

21日(土) 当世語り部口座VOL.2 松村 武さん ..... 8

### 5月

4日(日) 当世語り部口座VOL.3 作花 一志さん ..... 8  
24日(木) 子どもに語るお話入門講座 開講 ..... 17

### 6月

30日(土) 当世語り部口座VOL.4 千田 稔さん ..... 8

### 7月

29日(日) 当世語り部口座VOL.5 岡本 彰夫さん ..... 8

### 8月

16日(木) 第83回阿礼祭 ..... 24  
20日(月) 当世語り部口座VOL.6  
小林 晴明・宮崎 みどりさん ..... 9

### 9月

6日(木)～10月1日(月)  
古事記関連ブックフェア ..... 17  
9日(日) 古事記ざんまい ..... 10  
9日(日) 語り継ぐ むかしむかしのはなし ..... 17  
20日(木) 当世語り部口座VOL.7 神崎 宣武さん ..... 9

### 10月

15日(月) 当世語り部口座VOL.8 喜多 敏夫さん ..... 9  
27日(土) 古事記の里 ウォーク&イベント  
阿礼を訪ねて ..... 18  
28日(日) 語り継ぐ むかしむかしのはなし ..... 17  
29日(月) 当世語り部口座VOL.9 鎌田 東二さん ..... 9

### 11月

1日(木) 奈良高専への出張授業(古事記と宇宙) ..... 22  
10日(土) 古事記の里 ウォーク&イベント  
安万侶を訪ねて ..... 18  
11日(日) 語り継ぐ むかしむかしのはなし ..... 17  
12日(月) ふるさと語り部エッセイ表彰式 ..... 15  
12日(月) 当世語り部口座VOL.10 藤本 保文さん ..... 9  
23日(日) 古事記と宇宙  
『古事記と宇宙のシンポジウム』 ..... 20  
『宇宙から見た古事記の舞台』(～24日) ..... 22  
24日(土) 古事記と宇宙  
『音楽で楽しむ古事記と宇宙』 ..... 21  
『JAXA宇宙教室コズミックカレッジ』 ..... 22

動画配信 大和郡山の語り伝えたいふるさと民話 ..... 16

### その他関連事業

賣太神社 古事記撰上1300年祭 ..... 23  
古事記の新たな世界 ..... 23  
大和郡山から歴史の風が吹く ..... 23  
大和郡山産純米酒『こをろこをろ』発売 ..... 23  
第21回郡山女のまつり ..... 24  
平和公民館まつり 書道クラブ展『古事記』 ..... 24  
稗田の阿礼さまの鎮守の杜のお話フェスティバル ..... 24  
古事記輪読会 ..... 24

古事記1300年紀事業実行委員会 ..... 25

広報活動 ..... 26

おわりに ..... 34

オープニングイベント

# 古事記1300年 新たな物語りの始まり

平成 24 年 2 月 4 日 (土) 10 時～  
やまと郡山城ホール大ホール 他  
参加者数 1,000 名

阿礼踊りの披露 (平和地区子ども会のみなさん)  
トークショー「古事記を楽しむ」  
千田 稔さん (奈良県図書館情報館館長)  
松村 武さん (劇団カムカムミニキーナ主宰)  
尾川 賀栄さん (第 29 代元女王卑弥呼)  
上田 清 (大和郡山市長)  
石見神楽 (島根県浜田市大尾谷神楽社中)  
県内外ゆかりの地ブース出展  
(島根県浜田市・天理市・桜井市・田原本町)  
上田忠男 古事記コレクション展 (展示室にて)



1 月 13 日 (金)、オープニングイベントの開催まで約 3 週間を残して、参加申込みが定員をオーバー。その後は、せっかく申し込んでいただいてもお断りしなくてはならないという事態となりました。

2 月 4 日 (土)、満員となった会場のやまと郡山城ホール 大ホール。

9 時の開館とともにできた入場者の列は、ホール事務所の前まで・・・という前代未聞の状況の中、10 時に開演となりました。

松村 武さん (劇団カムカムミニキーナ主宰・古事記 1300 年紀事業実行委員会特別顧問) の司会進行で始まったオープニングイベント。上田清大和郡山市長を呼び入れて、2 人の軽やかな会話が進みます。

市長「古事記にはいろんな知恵や知識が記されています。そんな古事記発祥の地であることを、地域の誇りとしたいです。」

松村さん「次に、阿礼祭で毎年踊られている阿礼踊りを紹介しましょう。僕の地元なんで、子どものころによく見ました。」

平和地区子ども会のみなさんによる踊り。

『阿礼さま音頭』

『阿礼さま祭り子供の歌』



30年の長きにわたり、子ども達の指導と太鼓を務めてこられた、花柳琴香さんに花束贈呈。

花柳さん「いつも子どもたちに元気をもらってきました」

かわいい子どもたちの踊りの後、松村さんと市長に加えて、千田 稔さん（県立図書館情報館館長・古事記1300年紀事業実行委員会特別顧問）、尾川 賀栄さん（第29代元女王卑弥呼）をお迎えして、トークショー開始。

千田さん「古事記は音読する（声に出して読む）と、わかりにくい文章も分かるようになってきます」

松村さん「古事記は演劇の要素を含んでいます。演劇で表現することがピッタリな物語です」

市長「1300年前を考えることは、1300年先を考えることにつながります。誇りを持つことは大切なこと。このことが郡山の底力となるはずですよ。」

尾川さん「もっと私のような若い人たちにも、古事記の楽しさを知ってもらいたいです。」

など、古事記初心者にも分かりやすく、古事記を楽しめる内容のお話が続きました。

さらに、9月9日に歌劇『古事記（ふることぶみ）』の上演を予定している、市民劇団「古事語り部座」が劇中の歌を披露。歌詞カードをお渡しして、会場のみなさんも一緒に参加。作曲者の「サキタハチメ」さんも駆けつけて、ご挨拶いただきました。

最後は、遠く島根県浜田市から来ていただいた石見神楽 大尾谷社中 20名のみなさんによる『石見神楽』の上演です。

稲田姫（または櫛名田姫）を狙う八岐大蛇（やまたのおろち）、それを退治する須佐之男命（すさのおのみこと）。

迫力満点の上演で会場が沸き上がり、幕を閉じました。

古事記初心者の方も、上級者の方も、古事記を楽しむことのできた1日。まさに、1300年紀の幕開けとなるイベントでした。

また、会場の外では、物産展を開催。天理市、桜井市、田原本町、島根県浜田市そして地元大和郡山の物産の販売や観光案内を行いました。



オープニングイベント

# 上田忠男 古事記コレクション展

～古事記の里 稗田に生まれ育った私の資材帳より～



平成 24 年 2 月 4 日 (土) ～ 6 日 (月)

9 時～18 時 ※6日は17時まで

やまと郡山城ホール 展示室

参加者数 1,300 名

オープニングイベントにあわせ、やまと郡山城ホールの展示室で開催した『上田忠男 古事記コレクション展』。地元稗田町に生まれ育った故・上田忠男さん(元北和診療所の医院長)が、生前、地元を盛り上げようと集められた作品のうち、主に、神話画や古事記写本の複製などをお借りして展示。部屋全体、神話の世界が広がる空間となりました。開催された3日間で約1300名の方が来場され、素晴らしい作品を堪能できました。

上田忠男コレクションは、絵画、書籍、考古資料など多分野にわたるコレクションです。1968年(昭和43)から二十数年間にわたって集められたもので、「私の資材帳」というノートに収集物が書き記されています。

収集の契機は、由緒ある稗田の地に関する資料がほとんど残されておらず、閑寂の風情漂う稗田の現状を嘆き、稗田阿礼や古事記、詮海和上に関する資料を保存し、資料館の建設など地域の活性化につなげるためでした。

今回の展覧会では、古事記の神話画を中心に、近年の卷子本や古事記の複製本を展示しました。

神話画は神々を描いたものが主体で、近代の日本画家の作品が多く(山田雙竹、国井応陽、野口郁子、猪飼嘯谷、小村大雲、岩佐古香など)、小杉未醒の「阿礼談古」は1930年(昭和5)の第1回阿礼祭で披露された画で、稗田の歴史と関係が深いものです。

本展開催にあたり、故上田忠男さんのご家族の皆様には貴重な資料をお貸しいただいたとともに、ご寄付をいただきました。あらためて感謝申し上げます。



## 第16回 こおりやま歴史フォーラム

平成 24 年 2 月 4 日 (土) 13 時～  
やまと郡山城ホール大ホール  
参加者数 700 名

「古事記を読む」をテーマに、千田稔奈良県立図書情報館長が「古事記に自然を読む」、辰巳和弘元同志社大学教授が「坂に立つ神と人—古代人の宇宙観—」と題して講演。古代人の植物、鳥、太陽、海などの自然に対する考え方、交通路の坂にみる常世と異界、神と人という境界意識に触れ、古事記を生んだ古代人のものの考え方、感じ方を探りました。

また、幕間にはやすきひろこさんが一人語り芝居「古事記より 阿礼の背中」を演じ、稗田阿礼の語りの世界に浸りました。



## 第8回 記憶力大会

平成 24 年 2 月 5 日 (日) 10 時～  
やまと郡山城ホール大ホール  
参加者数 228 名

稗田阿礼の記憶力にあやかって、「現在の阿礼を探せ」と平成 16 年から開催されています。例年の競技の部・自慢の部・記憶力日本選手権大会の 3 部門に、自慢の部に古事記の部（古事記本文、神話・神様の名前等を記憶）を新設。「天地のはじまりと神々の誕生」などを暗誦した 7 歳の安井湖桃さんが、阿礼賞（優勝）を獲得しました。



## 古事記関連ブックフェア

平成 24 年 1 月 5 日 (木) ～ 2 月 19 日 (日)  
市立図書館 1 階展示コーナー

古事記に関するさまざまな図書や絵本など、約 150 冊を展示しました。手にとって見る人、借りる人が徐々に増えているようでした。

やはり「古事記 1300 年紀」の広報効果があったようです。





『口座』には、  
「口から口へ語り継ぐ」  
「時間を預けていただければ、  
利息（知恵や知識）をお返  
しします」との意味が  
込められています。

少し時間を預けてください…

## 当世語り部口座

～人間ってすごいじゃないか。

やまと郡山城ホール レセプションホール（1～5・8回）  
小ホール（6・7・9・10回）

語り継ごうよ、語り部の里、大和郡山から～

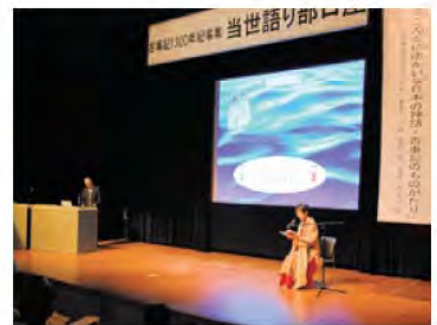
ふるさとの誇りや自信を取り戻すために知っておきたいこと、語り継ぎたいこと…

多彩な分野の講師が『語り部』となって、歴史の主人公である人間と、人間が生み出す文化・芸術と、人間をはぐくむ大いなる自然の魅力に迫ります。

回	日時	講師／演題	概略
1	3月3日(土) 10時～  約130人	はじめ 馬場 基 奈良文化財研究所 主任研究員  『都びとの声をひろう』	奈良時代には、「文字」以上に「話し言葉」が重要視されていました。「口伝え」による音声の世界が豊かに広がり古事記の誕生につながりました。
2	4月21日(土) 10時～  約130人	たけし 松村 武 劇団カムカムミニキーナ主宰  『“劇という語り方”』	稗田阿礼は古事記を演劇にして伝えていたのではないのでしょうか。文字のない古代において、演劇は物を伝える手段だったのではないのでしょうか。
3	5月4日(金・祝) 10時～  約130人	さっか かずゆき 作花 一志 京都情報大学院大学教授  『日食から探る古事記の世界』	来る5月21日に観察できる金環日食の見え方、見方を説明いただくとともに、古代「天の岩戸日食伝説」について掘り下げていただきました。
4	6月30日(土) 14時～  約130人	みのる 千田 稔 奈良県立図書情報館館長  『コレクター水木要太郎の宇宙』	水木十五堂の人柄や業績、あるいはその時代を読み解き、豊富な交友関係や人脈を持ち、人と人とのネットワークの中で水木のコレクションが形成されていたことがわかりました。
5	7月29日(日) 14時～  約130人	あきお 岡本 彰夫 春日大社権宮司  『郡山と武家の文化』	奈良市は公家の文化、郡山は武家の文化が濃厚です。郡山の武家文化について、柳澤家のこと、柳里恭のことを通じてお話いただきました。



回	日時	講師/演題	概略
6	8月20日(月) 14時  約280人	小林 <sup>せいめい</sup> 晴明・宮崎 みどり 「古事記のものがたり」著者  『こんなゆかいな日本の神話・古事記のものがたり』	私たちの祖先は、自然を人間と対等のもの(神)として厚く敬いながら四季の巡りに順応し、楽しくおおらかに生活していました。古事記に描かれた、先人たちの知恵や暮らしぶりを紹介していただきました。
7	9月20日(木) 14時  約280人	神崎 <sup>のりたけ</sup> 宣武 旅の文化研究所長  『山のカミ里の神 —信仰の原風景』	山島列島の日本で民間に広く根づいているオヤマ(御山)信仰。歳神も田の神も山から招く行事は、現在も伝わります。根強いオヤマ信仰の文化性を再考いただきました。
8	10月15日(月) 14時～  約130人	喜多 敏夫 自然循環型農業農家  『自然循環型農法の実践』	天敵や酵母菌を利用し、有機栽培や減農薬にこだわり、「自然循環型農法」を行っておられる喜多さんに、その実践を通じ、人間と自然の関わり、人間と自然の共存の仕方について語っていただきました。
9	10月29日(月) 14時～  約280人	鎌田 <sup>とうじ</sup> 東二 京都大学こころの未来研究センター教授  『My 面白古事記伝』	古事記の「面白さ」(次々と繰り出されていくスリリングで奇想天外なストーリーテリング)と「変さ」(日本書紀や各国風土記にはない、独自の物語伝承や重要な神学的観念が明確に提示されている点)に光を当て、掘り下げました。
10	11月12日(月) 14時～  約280人	藤本 <sup>やすふみ</sup> 保文 賣太神社宮司  『古事記が語ること』	古事記の編さんに携わった稗田阿礼を主祭神として祀る、賣太神社(大和郡山市稗田町)の宮司を務めておられる藤本さん。 阿礼が古事記を通じ我々に残したモノは何か、後世に語り継いだことは何か。古事記に綴られた、先人の感性や知恵、自然観、世界観について語っていただきました。



前期(1～5回)は、やまと郡山城ホールレセプションホールで定員130名で募集をかけたところ、どの回も定員の倍を超す申し込みをいただいて、抽選としました。そのため、後半は小ホールへと会場を移し開催。280名の方に参加いただくことができました。また、第8回は講師の喜多さんと市長の対談という形で進めました。



1日中 古事記を満喫

# 劇・遊・食・学 古事記さんまい

平成 24 年 9 月 9 日 (日) 10 時～  
やまと郡山城ホール  
参加者数 1,000 名

## 劇

### 『語り部の里』大和郡山 & 『神話の国』雲南 市民劇団フェスティバル

○大和郡山市民劇団『古事語り部座』

#### 歌劇『古事記 (ふることぶみ)』上演

開演：16 時 場所：大ホール

脚色・演出：松村武 音楽：はじめにきよし

演奏：はじめにきよしふることぶみスペシャルバンド

天地開闢から、イザナギ・イザナミ、天の岩戸、スサノオのヤマタノオロチ退治、大国主と因幡の白兔、山幸海幸そして神武天皇の誕生まで、古事記上巻に描かれた世界を生演奏と歌と芝居でつづる壮大な物語。

この日の舞台に向けて、2年半前に結成され練習を続けてきた大和郡山市民劇団『古事語り部座』。

2時間半に渡る大舞台、歌劇『古事記 (ふることぶみ)』を無事演じきりました。(詳細は p.12・13)



○島根県雲南市民劇団

#### 『異伝 ヤマトノオロチ』上演

開演：13 時 場所：小ホール

原作：佐古和枝 脚本・演出：亀尾佳宏

制作：雲南市演劇によるまちづくりプロジェクト実行委員会

『神話の国』島根県雲南市より市民劇団をお迎えし、創作市民劇を上演していただきました。



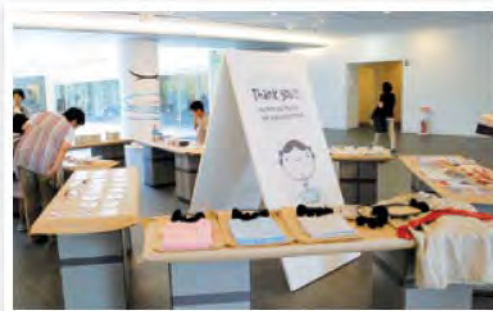
大ホールのエンディングでは、雲南市民劇団も登場。まさに古事記でつながった雲南と大和郡山。翌年には大和郡山市民劇団が島根県雲南市を訪ね公演することになりました。

# 遊

## オープニングトークライブ

出演：松村 武・サキタハデメ・新谷きよし・亀尾佳宏  
 時間：11時15分～11時30分  
 場所：エントランスロビー

古事記ざんまい1日の幕開けです。



## フルコトアート&マーケット

日時：9月7日(金)～9日(日) 10時～18時  
 場所：展示室

古事記モチーフの古代モノを集めたアートマーケット。古代もの制作ワークショップもありました。



## 古事記クイズラリー

時間：10時～19時  
 場所：館内各所

『古事記～なぞとときの書』をもらい館内をめぐり、古事記にちなんだクイズに挑戦。

# 食

## 古事記を食べよう!

時間：10時～19時  
 場所：レストラン「カステッロ」

古事記にちなんだメニューをホールレストランで楽しんでいただきました。

### 古事記セット

- ・山幸うどん(鴨うどん)
- ・海幸丼(ねぎとろ丼)
- ・因幡の白兔(デザート)



# 学

## 古事記関連ブックフェア

期間：9月6日(木)～10月1日(月)  
 場所：市立図書館内

古事記に関するさまざまな図書や絵本などの展示(約150冊)



## 語り継ぐむかしむかしのはなし

時間：13時30分～14時  
 場所：図書館2階集会展示室

『うみさちやまさち』『かぞえうた』のお話会





# 大和郡山市市民劇団『古事語り部座』

2009年11月より劇団員を公募。8歳から75歳まで、33人が集まりました。そのほとんどがまったくの素人。平日集まれる人と、土日の方が都合のいい人の2班に分かれ練習が始まりました。



松村 武さん

作品の脚本・演出を担当していただいたのは、劇団カムカムミニキーナ主宰の松村 武さん。地元大和郡山市稗田町の出身です。「知れば知るほど古事記はとてもおもしろく、奥深く、巨大です。ただ、ここに描かれる超リアルでいて生々しい世界観を伝えるのに、演劇というジャンルは最適だと思います。」

## 2010.8.29 劇団名決まる

上田市長より『古事語り部座』と命名されました。

## 2010.10.18 古事記勉強会

服部文化財係長から『大和郡山と古事記』について教わりました。演じる古事記の時代背景を知ることは大事なことです。

## 2011.7.10 中間発表会

土日チームと平日チーム合同での発表会を武道場で行いました。

「全チーム通して、約2時間半。長かった…暑かった…。でも、どのチームも通しでやりきり、最後テーマ曲も歌いました \(\wedge\wedge)/ なんとかできた！今後の稽古に繋げていきたいと思います。発表会には、大和郡山市長も見に来て下さいました。本番が楽しみだ、と仰ってくださいました！来年の9月には本番です！これから1年、本番に向けさらに頑張っていきたいと思います。」

(『古事語り部座』ホームページより)



## 2011.12.07 全曲完成

劇中歌の作詞作曲をしていただいたのは、ギター & ピアノデュオ「はじめにきよし」のサキタハチメさん。サキタさんはのこぎり奏者としても活躍中。劇中歌がこの日すべて出来上がりました。サキタさんには、歌の指導もてがけていただき、歌での感情表現など、わかりやすく説明していただきました。



サキタハチメさん

## 2012.2.04 オープニングイベントに出演

やまと郡山城ホール・大ホールにて、古事記1300年新たな物語の始まりオープニング・イベントが開催され、劇中歌『ふることぶみの神語り』を披露。観客のみなさんも、歌詞カードを片手に参加。全体での合唱となりました。

## 2012.8.16

賣太神社で行われた『第83回阿礼祭』に参加。

劇中歌『ふることぶみの神語り』を奉納。熱い歌声が鎮守の柱に響き渡りました。そして劇の成功を阿礼さまに祈願しました。

## 2012.9.07

残すところあと2日。明日は、すべて本番通り通す稽古。衣装、メイクはもちろん、休憩の時間もそのままやるそうです。こここのところ一緒に過ごす時間が多いため、メンバーはもう家族のようです。この楽しい雰囲気、本番に向けてテンションあげて行きます p(^\_^)q

(『古事語り部座』ホームページより)



本番  
です



▲ 稗田阿礼役の松村さん。客席から。

稗田阿礼と太安万侶が、おそらく当時無限にあったお話の中から、これだけは後世に残そうよと絞りに絞った物語群が古事記です。なので、なるべくエピソードカットをしないように構成しました。神話篇だけですが、なかなかこういう形で通して見る機会はないと思います。千年を越えて伝わった物語と今この一瞬を生きる役者たちの人生の交錯を、しみじみと眺めていただければ幸いです。

『松村 武 古事記ざんまいパンフレットより』



▲ イザナミが次々に国を生んで、大八島の国(本州)ができた。



▲ 『はじめにきよし』の生演奏。客席から。



▲ 天の岩戸からひっぱり出されたアマテラス。これで世が再び明るくなった。



▲ イザナギのみそぎによって、アマテラス、ツクヨミ、スサノオが生まれた。



▲ 出演者全員で歌う『昔々誰かに聞いた話』。感動のラストシーン



▲ 大人以上にガンバツ小学生3人組

地域性豊かな演劇作品が創出されるとともに、市民自らが現代の語り部となって、地域が持つ歴史・文化や魅力を発信していく土壌づくりの機会となりました。

シーンはまだたくさんありましたが、これらの全員の衣装(約60着)を作っていたのは、広報紙でも募集をした市民ボランティアのみなさんでした。ありがとうございました。

今、語り継いでおきたいこと

## ふるさと語り部エッセイ

古事記には古代人の生き方や先人の知恵、生活習慣など、様々なことが描かれています。その古事記の編さんに大きな役割を果たした「稗田阿礼」は、古事記をとおして、現在に生きる我々に、たくさんのことを伝え残しました。

古事記編さんから1300年の時が流れた現在、世の中には情報が氾濫し、「語ること」「語り継ぐこと」の大切さが忘れられようとしています。

今、私たちが語り継いでおかななくてはならない大切なことを、子どもたちや後世の人たちへ伝えたいことを、ここに残しておきませんか。

「まだ見ぬ未来の子どもたちへ」「震災を経験して」「愛するあなたへ」。  
今、語りたいこと、語り継ぎたいこと。

平成24年2月6日より応募を開始しました「ふるさと語り部エッセイ」。応募締め切りの6月末までに、全国はもとより、海外からも数多くの作品をご応募いただき、その数は324通を数えました。

年代	応募数
10代	10
20代	23
30代	49
40代	53
50代	55
60代	56
70代	38
80代	25
90代	2
無記入	13

地域	応募数
北海道	8
東北・北陸	24
関東・東海	128
近畿	136
うち大和郡山市	35
中国・四国	12
九州	13
沖縄	1
海外	2
	324



内容は、震災のこと、戦争体験、家族の愛、日本の文化風習など、様々な分野にわたりましたが、厳正な審査を行い、8作品の受賞作品を決定しました。子どもたちへ、後世の人たちへ語り継がれんことを願って・・・

### 「ふるさと語り部エッセイ」選考委員 (50音順)

- 武 智 功 (奈良新聞社取締役)  
司 茜 (詩人・日本ペンクラブ会員・第22回富田碎花賞受賞)  
藤 本 眞喜子 (賣太神社禰宜・奈良県童話連盟会長)  
松 村 武 (劇団主宰・脚本家・古事記1300年紀事業実行委員会特別顧問)  
山 口 義 房 (クリエイティブディレクター・コピーライター・古事記1300年紀事業実行委員会委員)  
上 田 清 (大和郡山市長)

## 「ふるさと語り部エッセイ」受賞作品

- 最優秀賞                   『<sup>よそさま</sup>他人様を思う心』   加藤 博子 (千葉県)
- 優秀賞                   『ハジチの手』       大城 洋子 (沖縄県)
- 『3人用の座席』      秋谷 正夫 (千葉県)
- 佳作                     『笑顔のぬくもり』   田中 奈美恵 (愛知県)
- 『女たちの赤まんま』 後藤 順 (岐阜県)
- 佳作 (阿礼特別賞)      『神在月の十神山で』 鷺野 亜紀 (島根県)
- 佳作 (語り部の里賞)   『いろごはん』       竹田 多恵子 (奈良県)
- 『生き続ける』       城田 由希子 (奈良県)



## 「ふるさと語り部エッセイ」表彰式

日時：平成 24 年 11 月 12 日 (月) 13 時 30 分～

場所：やまと郡山城ホール 小ホール

遠く千葉県よりお越しいただいた加藤さんに、賞状、副賞を授与しました。

最優秀賞

### よそさま 他人様を思う心

加藤 博子  
(千葉県)

「おばあちゃん、ただいま。おやつ何？」お勝手の引き戸をガラガラッと勢いよく開け、息せき切って飛び込んできた私に「ねえちゃん、裾風立てる人は出世しねえよ。」蒸しあがったばかりの枝豆を箸に取りながら祖母が静かに言った。「すぞかせ？」「ああ、ばたば

た<sup>おおきな</sup>音たてて無神経な<sup>振舞い</sup>マネするのは、だめだってこと。」「ふうん。」湯気が立ち昇る枝豆に私は早速手を伸ばした。「学校で廊下は走るなって言われるだろう。何でか解るかい？」「転ぶと危ないからだよ。」「それ<sup>ばかりではない</sup>じゃねえ。本読んでる人、話してる人、学校にはいろんな人がいるだろう。中には具合悪い人もいるかもしれねえ。他人様に気遣いしないでバタバタ走ってどうするね」「そうか。それが裾風か。」私は即座に納得した。

祖母は田舎のばあさんだったが、マナーに関しては一言ある人で、私に色々な事を教えてくれた。月に一度巣鴨のお地藏様に市が立つと、幼い私の手を引き、電車で小一時間の距離を参詣に出向いた。その道中も「ねえちゃん、人の多い所じゃ背中に目つけて歩くんだよ。急ぐ人の道塞ぎになっちゃいけねえ」「電車で立ってる時は、他人様の頭の上でいっかい声でしゃべっちゃいかん。」時に口うるさいと思うほどの指導があった。「なんでそんなに他人様を気にするの？」と問いかけると、祖母はこんな話をしてくれた。「うちの本家は長屋門のある<sup>なぬし</sup>名主で、広い風呂があった。本家の爺さんは終戦後、戦地から引き上げてきた兵隊さんを見ると、「ご苦労様でした。」と誰彼かまわず飯をふるまい風呂に入れた。あたしも手伝いに行ったが、あれほど汚れた兵隊さんが使った後の風呂なのにちっとも汚れていないんだよ。どの人もそうだ。それが昔の日本人だよ。他人様に対する礼儀がしっかり身につけてたよ。礼儀ってのはな、相手を思う気持ちなんだ。だからねえちゃんにも、ちゃんとした日本人になってほしいんだ。」祖母はそう言って私の頭を撫でた。



# 大和郡山の語り伝えたいふるさと民話

動画で配信中

その土地その土地に伝わってきた民話や伝説には、その時代に生きた人々の考え方や、くらしぶり、伝統、風習が記されています。大和郡山市にも、たくさんの民話があります。地域に語り継がれてきた伝説をボランティアらの手で掘り起こし、書籍にしたもの、絵本にしたものもあり、市立図書館などで見ることができます。

その中のひとつ、「こおりやま民話絵本の会」が作成した、「大和郡山の語り伝えたいふるさと民話」の原画（画像）を芝居風に動画（語り付き）にしたものを大和郡山市のホームページで紹介しています。

<http://www.city.yamatokoriyama.nara.jp/kankou/event/1300/002755.html>



## うしの宮



文・絵：坂本 佳代子  
きり絵：馬場 敏枝  
語り：中川 直子

## みそなめ地蔵



絵：坂本 佳代子  
文：荒井 恵子  
語り：大道 ラン

## 親子塚



絵：北城 卓雄  
文：川田 和恵  
語り：池田 加津子

## 語り継ぐ むかしむかしのはなし

### ●期間・場所

9月9日(日) 市立図書館2階 集会展示室  
『かぞえうた』『うみさちやまさち』  
(「古事記ざんまい」との共催)

10月28日(日) 奈良県立大和民俗公園古民家  
『三枚のお札』『塩吹き白』『サルとカニ』  
『弥山大神のたすけ』『国生み』  
(県立民俗博物館と共催で開催)

11月11日(日) 平和地区公民館 囲炉裏の部屋  
『大和のカエルと大阪のカエル』  
『おばあのがたり』『いなばの白うさぎ』

●概要 神話、大和の昔話、民話の語り。

●参加者数 3回 合計85名



～語りつぐ、おはなしの楽しさを子どもたちに～

## 子どもに語る お話入門養成講座

お話を覚え、語り、聞きあう実習を通して、おはなしの楽しさを体験し、主に子どもたちに語るお話について学びました。

- 対象：受講者20人
- 場所：市立図書館2階 集会展示室
- 日程：5月から平成25年2月までの8月・12月を除く  
第4木曜日 10時～12時
- 講師：花木 恵子（前大和郡山市立図書館長）

申し込み受付初日の午前中で、定員いっぱいとなったこの講座。全8回の講座で、おはなしの楽しみ方や伝え方を学びました。全講座修了後3月20日に、集大成となる発表会を開催しました。



## 古事記関連ブックフェア

- 期間 平成24年1月5日(木)～2月19日(日)  
9月6日(木)～10月1日(月)
- 場所 市立図書館1階展示コーナー
- 概要 古事記に関するさまざまな図書や絵本などの展示 (約150冊)



古事記編さんの  
立役者「稗田阿礼」  
と『太安万侶』の里を  
結ぶウォークを、両市・  
町の観光ボランティ  
アガイドが企画  
運営。

古事記の里 ウォーク&イベント

## 田原本(安万侶)～郡山(阿礼)を結ぶ

### 稗田阿礼を訪ねる(大和郡山市)

平成 24 年 10 月 27 日(土) 8 時 30 分～

集 合：近鉄ファミリー公園前駅下車 西へ徒歩2分の広場

コース：ファミリー公園→下ツ道→番条→平和地区公民館(昼食・イベント)  
→稗田環濠・賣太神社→JR 郡山駅→箱本十三町観光案内所(16 時頃)  
[8.5km]

参加者数：265 人

当日はガイドブックを片手に、ガイド同行のウォークをするもよし、フリーウォークをするもよし、イベント日以外に歩くもよし。ガイドブックにスタンプを集めると、記念品がもらえました。

下ツ道は古代の、藤原京から平城京へまっすぐのびた幹線道路。阿礼も歩いたかもしれない道をボランティアガイドさんの説明をききながら歩き、阿礼の地元稗田へ。

昼食会場兼イベント会場となった平和地区公民館では、ボランティアガイドさんたちによる古事記の概要説明や神話の語りなど、手作り感に溢れた催し。そして、賣太神社宮司藤本さんによるご講話もあり、大変勉強になりました。



### 太安万侶を訪ねる(田原本町)

平成 24 年 11 月 10 日(土) 9 時～

コース：笠縫駅→小杜神社→多神社→秦楽寺→陣屋跡・町民広場(昼食)  
→鏡作神社→孝霊神社→黒田(法楽寺・黒田大塚古墳)→黒田駅

参加者数：364 人

近鉄笠縫駅で冊子を配布。太安万侶が祭られている多神社や古事記ゆかりの鏡作神社などを廻るコース。ポイントポイントで観光ボランティアガイドさんが説明をしてくれます。

地元の方々の尺八や琴披露や、多神社宮司のご講話などもあり、地域一帯となっておもてなしをうけました。



# 『古事語の里 ウォーク&イベント』実行委員会

## 両ボランティアガイドクラブの連携

普段はそれぞれの町・市で活動中の田原本町・大和郡山市の観光ボランティアクラブのみなさん。『1300年前の2人の情熱を現在の語り部達で後世に語り伝えたい』のコンセプトのもと、協同で企画運営をしていただきました。…勿論、1300年前の2人とは太安万侶と稗田阿礼。現在の語り部とはボランティアガイドさんです。

2011年春に初顔合わせ。それ以後何度も集まり、冊子制作委員会を立ち上げ、下見をし、たくさんの苦勞の結果、魅力いっぱいのウォーキングコース、ガイドブック、イベントができあがりました。まさに、大和郡山市と田原本町の行政の枠を超えた、官民一体で取り組んだ事業となりました。



## 冊子作成委員会

ウォーク参加者にお配りした古事記の里ガイドブック。

ウォーキングコースのマップ以外にも周辺スポットや古事記の概要・神話も掲載されていて、スタンプの台紙にもなっています。それらはすべて、ボランティアガイドさんたちの企画編集で作ったもの。参加の記念に、また参加しなくてもほしい1冊です。

企画内容を考える実行委員会と別に『冊子作成委員会』を立ち上げ、喧々諤々話し合いを繰り返し完成しました。



## 両市町合同記者会見

参加者募集開始前の8月28日、大和郡山市役所で、両町・市合同での記者会見を行いました。田原本町からは寺田町長をはじめ、産業観光課の方々、観光ボランティアガイドクラブの松井会長、大和郡山市からは、上田市長、地域振興課の面々、山下会長をはじめとするボランティアガイドの方々が参加。各新聞記者さんへ、募集記事の掲載等をお願いしました。



## 当日はスタッフとしてガイドとして

企画立案から始まり、準備、リハーサルと大忙しだったガイドさんたち。ウォーク当日も、受付、イベント会場でのおもてなし、そして道中のガイドと大活躍。お疲れ様でした。





# 古事記と宇宙

平成 24 年 11 月 23 日 (金・祝)・24 日 (土)  
やまと郡山城ホール

参加者数：両日で 1,200 名

共催：京都大学・京都大学宇宙総合学術研究ユニット

## シンポジウム『古事記と宇宙』

11月23日 (金・祝) 13時～

挨拶 松本 紘 (京都大学総長)

講演 鎌田 東二 (京都大学こころの未来研究センター教授)

「古事記と宇宙」

佐々木 節 (京都大学基礎物理学研究所教授)

「宇宙のはじまり：最新宇宙論から」

海部 宣男 (国立天文台名誉教授)

「アジアの星の神話と宇宙観」

ミニ講演 中野 不二男 (京都大学/JAXA)

「宇宙から見た古事記の舞台」

### パネルディスカッション

「古事記から現在、そして 1300 年後の未来へ向けて」

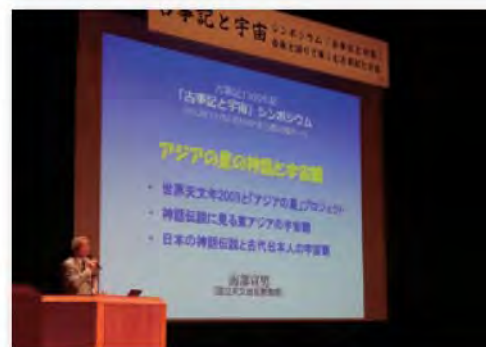
【出演】 松本 紘・鎌田 東二・佐々木 節・海部 宣男・

中野 不二男・千田 稔・上田 清

古事記には、古代の日本人の宇宙観や世界観が描かれています。一方、現在の宇宙科学の進歩は、私たちの宇宙観を日々変えつつあります。当市出身の京都大学松本紘総長のご挨拶に引き続き、古代と現在の宇宙観、そして私たちが遠い未来に残すべきことなどについて、各界の先生方に語っていただきました。

冒頭、松本総長が、「科学でもなく非科学でもない、まだ科学になっていない『未科学』の領域に新しいテーマを見つけて人間社会を豊かにするキーがあります。」とご挨拶いただきました。鎌田先生は「古事記は多様な解釈、多様な観点から読み解くことが許される書物。」と。一方、佐々木先生は最新科学の立場から今の人間の持っている宇宙観につながる話を、そして海部先生には神話と科学・宇宙をつなぐお話をさせていただきました。

パネルディスカッションでは、「われわれは、何処から来て（古事記に描かれている宇宙の始まり）何処へ行くのか（最新宇宙科学論）」を焦点に話が進みました。



## 音楽と語りで楽しむ古事記と宇宙

11月24日(土) 13時～

挨拶 柴田 一成 (京都大学大学院理学研究科教授)

宇宙落語 「ボイジャーファミリー」 林家 染二 (落語家)

ミニ講演 「宇宙科学と文化」 磯部 洋明 (京都大学特定講師)

音楽と宇宙映像で感じる古事記 喜多郎 (ミュージシャン)・柴田 一成

若者から未来へのメッセージ 喜多郎・柴田 一成・上田市長

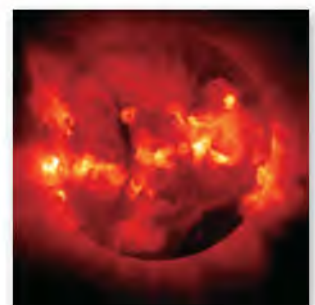
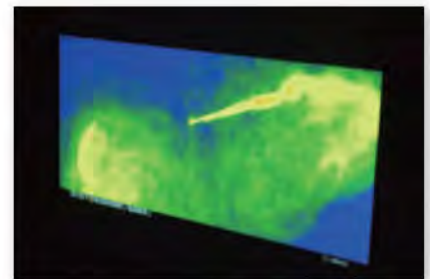
奈良工業高等専門学校生を交えて

(電子制御工学科4年: 稲谷 明宏・後藤 毅朗・海本 祐真・音田 恭宏・  
西川 祐豊・徳田 三恵春・北野 和哉・真田 祐作)

まずは、抽選で宇宙旅行が当たった家族の話という、奇想天外な宇宙落語に大笑いで1日がはじまりました。

喜多郎さんの楽曲「古事記」は、古事記と宇宙の関わりを見事に音楽で表現したものの。その楽曲から連想されるイメージを、古事記の内容も考慮しつつ編集した宇宙映像とのコラボレーションを、喜多郎さんの生演奏もまじえて楽しんでいただきました。この音楽と映像の融合の試みは、多くの参加者の心を打ち、「映像と音楽の作品は、とても美しく太陽系の惑星や黎明の場面は涙がこぼれる程、感動しました」「映像と音楽のマッチングがすばらしかった。まさに「古事記と宇宙」。ぜひDVDにしてほしい。」(参加者アンケートより)などの感動のご意見をいただきました。尚、構成・編集に関しては、京都大学学術情報メディアセンターコンテンツ作成室、資料提供は京都大学大学院理学研究科附属天文台の先生方をはじめ、自然写真家の牛山俊男さんなど、たくさんの方のご協力をいただきました。

最後に行われた「若者から未来へのメッセージ」と題したディスカッションでは、事前に自分たちの「1300年後に残したい物」のプレゼンを用意した高専生8名が自分たちの意見を発表(事前授業は次ページ記載)。「1300年後には個人個人の生き方が尊重される『やるき主義』が表れる。」「血を流さない情報戦争がはじまり、ネット社会、ロボット社会が発達、宇宙での生活が始まっている」「1300年後にのこしておきたい物は『ネットの情報』『花見や花火』『金魚や金魚すくい』と。大人のパネラーたちと討論を重ねました。「どんなに科学が発展しても、人間が考えることをわすれてはいけない」「人間が作り、残してきたものへの感謝をつたえていかなければいけない」といった意見が飛び交いました。参加者の方からは「日々、情報に流されてしまいそうになるが、『考えることをやめてはいけない』ということを改めて意識でき、ありがたかった」(参加者アンケートより)などの感想をいただきました。



## JAXA宇宙教室コスミックカレッジ

11月24日(土) 10時~12時

やまと郡山城ホール レセプションホール

参加者数：小学3~6年生とその保護者 27組

JAXA 宇宙航空研究開発機構の協力を得て、実験や古事記を通して宇宙を体験する親子で楽しめる教室を開催しました。

体験を通じて、図鑑ではわからない宇宙の広さが体感でき、宇宙の歴史も学ぶことができました。「空間的にも、時間的にも宇宙のスケールを肌で感じることができました」(参加者アンケートより)などの感想をいただきました。



## 宇宙から見た古事記の舞台

11月23日(金・祝) 12時~18時 / 24日(土) 10時~17時

やまと郡山城ホール 展示室

協力：(株)リモートセンシング技術センター (RESTEC)

宇宙開発利用が進む現代では、日本の「だいち」などの人工衛星に搭載した観測機器で、宇宙から地球を観測することにより、詳細な地形データや地質、植生など様々なデータを得ることができます。最新宇宙科学の目で見た古事記の舞台をご覧いただきました。



## 奈良高専への出張授業

11月1日(木) 13時~

「未来へのメッセージ」の発表に向け、事前に京大宇宙総合学研究ユニットの磯部特定講師による、奈良高専への出張授業が行われました。

磯部講師はビッグバンから現在、そして1300年後の宇宙の歴史について説明。参加してくれた電子制御工学科の8人の生徒は、その話をもとに意見を出し合いました。

生徒たちは、その後も何度もミーティングを繰り返し、24日の本番に向けて、1300年後の世界はどうなっているか、1300年後の子孫に何を伝えたいか、情報をどのように残せばいいかなど、自分たちの意見をまとめてくれました。

担当の上田先生は「大勢の前で自分たちの意見を発表できる、とてもいい機会になりました」と話していただきました。



## その他の関連事業

### 賣太神社古事記撰上1300年奉祝祭

- 日 時：4月30日(月・祝) 10時～
- 場 所：賣太神社
- 内 容：お渡り・祭典・一人劇・踊りなど

稗田阿礼を祀る賣太神社で、1300年の節目を祝い、古事記に流れる「日本のこころ」を語り継いでいこうと奉祝祭を開催。稚児行列や、一人語り(やすきひろこ)などが行われました。



### 古事記の新たな世界

奈良県立橿原考古学研究所と大和郡山市教育委員会の共催で、公開講演会が開催されました。

- 日 時：11月3日(土・祝) 13時～
- 場 所：やまと郡山城ホール大ホール
- 講 演：前園実知雄さん 「古事記編者太安万侶墓の発掘からわかること」  
今尾 文昭さん 「考古学からみた古事記の世界」  
千田 稔さん 「天武天皇と古事記」



### 大和郡山から歴史の風が吹く

第16回地震・火災フォーラム「大和郡山から歴史の風が吹く “言の葉遺産”の魅力を語ろう」が開催された。映画監督の篠原正浩さんの基調講演に続くパネルディスカッションには、当実行委員会橋本弘隆委員長がパネラーとして出演。

- 日 時：11月17日(土) 13時～
- 場 所：イオンモール大和郡山2F イオンホール



### 大和郡山産純米酒『こをろこをろ』発売

市内の遊休農地を活用したお米(ヤマダニシキ)から作った純米酒。

『語り部のつぶやき こをろこをろ』と銘々され、中谷酒造より発売されました。ラベルの題字は高岡哲也さん。





## 第21回郡山女のまつり

2月26日(日)

テーマ

『古事記(ふることぶみ)1300年～和の心再発見!』



郡山女性ネットワークが毎年開催している「郡山女のまつり」。平成24年はテーマを「古事記1300年～和の心再発見」として開催。

## 平和公民館まつり

書道クラブ展『古事記』

平成23年11月16日



古事記の中から好きな言葉や字を選んで作品を制作。事前に講師を招いて古事記の勉強会も行いました。(2012年の幕開け前に、市民のみなさんの間から盛り上がりがありました)

## 第83回 阿礼祭

8月16日(木)



昭和5年から毎年続いてきた阿礼祭。祭典や阿礼踊りの奉納などが行われました。

## 稗田の阿礼さまの

鎮守の杜のお話フェスティバル

8月16日(木)



今年は、1300年祭を記念して、阿礼祭の日の午後、賣太神社で、奈良県童話連盟・大阪府児童文化研究会主催の「稗田の阿礼さまの鎮守の杜お話フェスティバル」が開催されました。紙芝居・腹話術・人形劇など、子どもからおとなまで、真剣に見入っていました。

## 古事記輪読会

平成23年9月12日

1人ずつ順に古事記を分担し音読する輪読会。稗田阿礼を祀る賣太神社で開催され、上中下巻を完読しました。



## 古事記 1300 年紀事業実行委員会

役職	所属団体名	氏名	備考
特別顧問	奈良県立図書館情報館長	千田 稔	
特別顧問	劇団カムカムミニキーナ主宰	松村 武	

役職	所属団体名	氏名	備考
委員長	奈良県立医科大学副理事長	橋本 弘隆	委員長
副委員長	大和郡山市女性ネットワーク会長	亀岡 静代	副委員長
監事	大和郡山市文化財審議会会長	長田 光男	監事
委員	地域プランナー・コーディネータ/ 天理市環境経済部参与	井ノ本 直三	
委員	平和地区自治連合会会長	上田 房雄	
委員	大和郡山市観光協会事務局長	田中 利明	H24.4.1 から
委員	奈良県文化観光局 ならの魅力創造課長	谷垣 裕子	H24.3.31 まで
委員	奈良県文化観光局 ならの魅力創造課長補佐	永井 聡	H24.4.1 から
委員	大和郡山市副市長	水野 敏正	H24.2.29 まで
委員	ふるさとサポーター/ 奈良県医療管理課主幹	村上 健	
委員	クリエイティブディレクター	山口 義房	
委員	大和郡山市観光協会事務局長	山下 正樹	H24.3.31 まで
委員	大和郡山市副市長	吉村 安伸	H24.3.1 から
委員	大和郡山市地域振興課長	徳田 耕一	
委員	大和郡山市生涯学習課文化財係長	服部 伊久男	

# 広報活動

より多くの人に、古事記 1300 年 紀事業のイベントを知ってもらうために、ポスター・チラシ・リーフレットの発行 広報紙・ホームページでの発信を行いました。

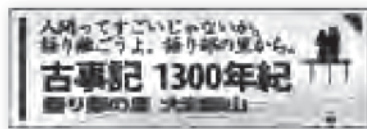
また、広報紙では、市民に古事記のおもしろさを知ってもらおうと、1 年前より「来る 2012 年 古事記 1300 年 紀」を連載しました。

## ポスター・チラシ



## ホームページで動画の配信

大和郡山市のホームページでは、PR 用動画や、終了後は報告用動画も配信しました。



## リーフレット『古事記と大和郡山』

大和郡山の歴史の中から古事記との関連を探りました。

### 目次

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1. 古事記とは     | — 神話と歴史の間 —    |
| 2. 稗田阿礼と太安万侶 | — 古事記編さんの立役者 — |
| 3. 下ツ道と「稗田」  | — 道・川・橋・まじない — |
| 4. 稗田環濠集落の成立 | — 濠で囲まれた村 —    |
| 5. 賣太神社の変遷   | — 祭神稗田阿礼の登場 —  |
| 6. 阿礼祭のはじまり  | — 語り部の里へ —     |
| 7. 久留島武彦と奈良  | — 児童文化人の活躍 —   |



『来る2012年、古事記1300年紀に向けて』

平城遷都の2年後712年、日本最古の歴史書『古事記』が編さんされました。古事記には、宇宙の始まりや多くの神話、歌謡、伝説が豊富に記されています。また、古代人の生活習慣、思想がちりばめられていて、私たちの祖先の生き方や考え方を考察することができます。その、歴史的・文化的遺産とも言える古事記の編さんに、ここ、大和郡山出身の人物が深く関わっていました。



稗田阿礼

大和郡山市稗田町出身の「稗田阿礼（ひえだのあれ）」は、古事記の序に「時に舍人あり、姓は稗田、名は阿礼、年はこれ二十八、人となり聡明にして、目に度れば口に誦み、耳に佛るれば心に勒しき」と記されています。一度、目や耳にしたことは決して忘れなかった稗田阿礼に、時の天皇、天武天皇は、古代の様々な事柄を読み習わし、授けました。そして30有余年後、元明天皇が、太安万侶に「稗田阿礼が読み習った事柄を記録せよ」と命じ、古事記が誕生しました。



語り部の里大和郡山

1300年の時空が流れた今、阿礼が語った物語を語り継ぐため、また現代人が忘れかけている何かを後世に伝えるため、そして新たな物語りを産み出すため、来年2012年を「古事記1300年紀」とし、市民のみなさんの参加のもと、阿礼生誕の地から「語り部の里 大和郡山」を全国へ発信していきます。

(平成23年1月10日号掲載)

「お話の神様」稗田阿礼

古事記の編さんに携わった稗田阿礼は、市内稗田町にある賣太神社（めたじんじゃ）に祀られています。賣太神社では阿礼の業績をたたえて、昭和5年から毎年8月16日に「阿礼祭」が開かれています。

阿礼祭では地元小学生による雅楽に合わせて「稗田の舞」が奉納され、「阿礼さま音頭」や「阿礼さま祭り子供の歌」の舞が披露されます。その後には、童話連盟の人たちによる童話会が開かれ、読み聞かせや腹話術が催されます。「阿礼さま音頭」で阿礼は、「お話の神様」と歌われ、地元の人に親しまれています。

(平成23年2月1日号掲載)



## 「古事記」には・・・

古事記には、数多くの神話が書かれています。「因幡の白兔」「八俣のおろち」「海幸彦と山幸彦」などは私たちが子どもの頃に語り聞いたお話です。

戦後の教育では神話あまり扱われず、神話を耳にすることが随分少なくなりましたが、今またその良さが見直され、来年度採用の教科書の多くにこの神話を取り上げられることになりました。神話は私たちに家族の愛や勇気など、たくさんのお話を教えてくれています。

また、古事記には112首の歌が詠まれています。日本武尊（ヤマトタケルノミコト）が、大和の国を偲んで詠んだ歌、

「倭は国のまほろば たたなづく青垣 山籠れる 倭し うるはし」

は、やまとの美しさを詠んだもの。奈良県でよく名づけられる「まほろば」という言葉は、ここからの引用でしょう。

そして、古事記には宇宙が誕生してから神々が高天原へ集まるまでの百五十億年という時間の経過が記されています。1300年も前の古代人が、なぜそんな時間を考えられたのか、宇宙という空間を感じられたのかを思うと、とても神秘的です。古事記はじつに魅力たっぷりの書物です。

(平成23年3月1日号掲載)



## 阿礼が私たちに語り伝えたこと

### 私たちが後世に語り伝えたいこと

稗田阿礼が、語り伝えた「古事記」を紐解くと、古代人の生き方や物の考え方などを推し量ることができます。また、随所に先人の深い知恵がちりばめられ現在（いま）を生きる私たちにたくさんのお話を伝えています。そして、今、私たちが後世に語り伝えていきたい「物語り」があります。それは、その土地土地に伝わってきた民話や伝説です。民話や伝説には、その時代に生きた人々の考え方、くらしぶり、伝統、風習が記されています。古くから受け継がれてきた大事なもののや、地域の文化が綴られています。

大和郡山にも「矢田の蛙と平群の蛙」「豊浦のたぬき」「弘法の井戸」など、たくさんのお話があります。

地域に語りつがれてきた伝説をボランティアらの手で掘り起こし書籍にしたもの、絵本や紙芝居にしたものもあります。これらは、市立図書館などで見ることができます。同じお話でも、地域によって内容の違うものもあり、くらべてみるのも楽しいものです。私たちの住むこの郡山の地には、まだまだ知らない物語が隠れているかもしれません。

ありふれた街や、見慣れた光景のその奥に…。

(平成23年4月1日号掲載)



## 古事記ゆかりの地



奈良県やその周辺には、古事記の舞台とされている伝承の地がたくさん存在します。その中で大和郡山市にあるものを紹介します。

### 賣太神社(めたじんじゃ・稗田町)

稗田環濠集落の端にある神社で、古事記編さんに携わった稗田阿礼(ひえだのあれ)を主祭神としています。

境内には「かたりべの碑」が建てられ、毎年8月16日には阿礼祭が行われます。また、月に1回程度、古事記輪読会が開催されています。



### 矢田坐久志玉比古神社

(やたにいますくしたまひこじんじゃ・矢田町)

古事記に登場する、饒速日命(にぎはやひのみこと)が天磐船(あめのいわふね)に乗り、空を飛んでこの地に降り立ったとされています。

その神話から航空の神ともされ、楼門にはプロペラも奉納されています。旅行の安全祈願に訪れる人も多いようで、春日造の本殿(重要文化財)は室町時代の建築です。



### 杵築神社「でんでらこ」(きずきじんじゃ・山田町)

杵築神社に伝わる「でんでらこ」は、子どもがおとなに酒をふるまい、榎の木を引っ張り合います。酒に酔ったおとなが、子どもが扮するスサノオノミコトに負けてしまうという所作がヤマタノオロチ伝説をあらわしているといわれています。

(平成23年5月1日号掲載)

## 古事記が編さんされた地

古代の様々な事柄を読み習わし、古事記の編さんに携わった稗田阿礼は、市内稗田町にある賣太(めた)神社に祀られています。

一方、古事記の撰録者とされる太安万侶(おおのやすまろ)を祀るのが、多(おお)神社。田原本町多にあります。

約15キロ離れたこの2カ所は、古代の幹線道路「下ツ道」で結ばれます。当時は藤原京から平城京羅城門へとまっすぐ延び、道幅は25メートルもあり、藤原京から平城京への遷都の際も重要な役割を果たしたとされています。現存する道は細いですが、今もなお農道や生活道として活かされています。



多神社(磯城郡田原本町多)

飛鳥の時代から平城の時代へ、多くの古代人が行き交ったこの道、沿道には、数多くの遺跡、伝説などの観光資源があります。

市内だけでも、悲しい「大蛇の恋」の伝説が伝わる『嫁取橋』（八条町）や、「天目一箇神（あめのまひとつのかみ）」を御祭神とする『菅田神社』（八条町）、賣太神社が位置する『稗田環濠集落』（稗田町）、「平城京羅城門跡」（観音寺町）など多数。古代人になった気分で、古来の下ツ道に思いを馳せながら、歩いたり、サイクリングするのもいいものです。

（平成 23 年 6 月 1 日号掲載）

「下ツ道」は、奈良県のウォーキングポータルサイト「歩く・なら」のホームページでも詳しく掲載しています。



## 古事記の原本は・・・

古事記は、和銅 5 年（712 年）、元明天皇の命で稗田阿礼の語ることを太安万呂が撰録し献上した、日本最古の歴史書です。全 3 巻で、天地ができるころから、推古天皇の時代までを、神話や伝説を織り交ぜながら記述しています。

本文は和文的漢文体ですが、漢文では表記しづらい固有名詞等は漢字 1 字 1 音表記で表しています。

(原文)	時有舍人。姓稗田名阿禮。年是廿八。 爲人聰明。度目誦口。拂耳勒心。	伊邪那岐命 伊邪那美命
(読み下し)	時に舍人あり。姓は稗田、名は阿礼、 年はこれ二十八。人となり聡明にして、 目にわたれば口に誦み、耳にふるれば 心にしるす。	いざなぎのみこと いざなみのみこと

編さん当時の原本は、残念ながら現存しませんが、その写本はいくつか伝わっています。1371 年から 1372 年に書写された「真福寺本」は、最古の写本として貴重で、国宝に指定され、愛知県の真福寺宝生院（大須観音）に所蔵されています。

次に古いとされる 1381 年に写された「道果本」（上巻前半のみ・重要文化財）は天理図書館（天理市）に、また、本居宣長による「訂正古訓古事記」の刊本（1870 年）が県立図書館に所蔵されています。

（平成 23 年 7 月 1 日号掲載）



## 阿礼祭

現在の和歌山県和歌山市稗田町の出身で、古事記の編さんに携わった稗田阿礼は、古事記の序文に「若くて聡明、記憶力にも優れた人物」と書かれています。阿礼が史料に登場するのはここだけ。人物についての詳細は分かっていません。そのため、男性説、女性説、非実在説などの諸説が、本居宣長、柳田国男などの著名な国学者、文学者の間で唱えられてきました。



平和地区公民館・多目的ホールの緞帳に描かれた阿礼

その阿礼を「アンデルセンのような、童話の神様」とたたえ、児童文学者“久留島武彦”の提唱で昭和5年8月16日、第1回阿礼祭が開催されました。その後も毎年途切れることなく行われ、今年82回目を迎えます。

毎年…そう昭和20年8月16日、終戦の翌日も粛々と行われたとのこと。



『語り部の里』大和郡山はこれからも…。

(平成23年8月1日号掲載)

## 「古事記」は面白い

日本最古の歴史書「古事記」といえば、「なんだか難しくてとっつきにそう」と感じる人も多いかと思いますが、古事記には日本の国のはじまりや「因幡の白ウサギ」などの神話、夫婦愛や親子愛など、私たちの身近なお話がかかれています。

また、原文は漢文体ですが、口語訳されたものや解説本、絵本やマンガで書かれたものなどもたくさん出版されています。絵本は児童書に分類されていますが、大人が見てもわかりやすく、興味をひかれるものです。市立図書館や南部公民館図書室にも揃えていますので、その一部を紹介します。

著書名	作者等	所蔵場所
口語訳 古事記	三浦 佑之	南部公民館図書室
阿刀田高の楽しい古事記	阿刀田 高	市立図書館
絵で見るたのしい古典 1巻 古事記・風土記	萩原 昌好 他	市立図書館
マンガ日本の古典 1巻 古事記	石ノ森 章太郎	市立図書館

一度手にして、その面白さに触れてみてください。

(平成23年9月1日号掲載)



## 古事記発祥の地

### 古事記編さん 1300 年

2012年、古事記編さん1300年を迎えるにあたり、全国各地の“古事記ゆかりの地”で、記念の事業が開催されようとしています。

奈良県では2012年から、日本書紀完成1300年目となる2020年までの9年間をつなぎ、「記紀・万葉プロジェクト」として、県特有の歴史素材を活かし奈良の魅力を全国に発信する取り組みを行います。

そして大和郡山市でも、本市出身の稗田阿礼が古代の様々な伝承を「語る」ことで後世に残した『古事記』のよさを、もっと多くの人に知ってもらうため、また「語る」こと「語り伝える」ことの大切さを醸成するための事業を企画しています。



阿礼談古図（作：小杉未醒）

### 地域の誇りとして

古事記には宇宙の誕生から壮大なスケールの歴史の経過や、神話や歌謡が記されています。日本最古の歴史書とも文学書ともいわれる、壮大でロマンに満ちた「古事記」。

ここ大和郡山がそんな古事記の発祥の地であることを地域の誇りとし、2012年のこの事業が古代（いにしえ）から連綿と続いた歴史遺産を未来（あす）へ受け継ぐための土壌作りとなればと考えています。

（平成23年10月1日号掲載）

2012年(平成24年)、「古事記」編さん1300年目を迎えます。

大和郡山市では、『人間ってすごいじゃないか。語り継ごうよ、語り部の里から。』をテーマに様々な事業を展開し、古事記を通じた人づくり、まちづくりを進めます。

## 『人間ってすごいじゃないか。 語り継ごうよ、語り部の里から』

古代の様々な伝承を語り、古事記の編さんに携わった稗田阿礼の出身地 大和郡山

### 大和郡山市と古事記

現在の和歌山県大和郡山市稗田町出身の稗田阿礼は、一度見聞きしたことは決して忘れない、聡明な役人でした。時の天武天皇は阿礼に古代の様々な事柄を詠み習わし、記憶させました。

そして30有余年後の元明天皇が太安万侶に「稗田阿礼の詠み習ったことを記録せよ」と命じ、712年に古事記が誕生しました。

### 阿礼が私たちに語り伝えたこと

古事記には、多くの神話、歌謡、伝説が記されています。古事記を紐解くと、古代人の生き方や物の考え方などを推し量ることができます。また、随所に先人の深い知恵や家族の愛がちりばめられ、現在(いま)を生きる私たちにたくさんのことを伝えています。

### 私たちが後世に語り伝えたいこと

1300の時が流れた現在、世の中に情報が氾濫し、「語る」こと「語り継ぐ」ことの大切さが忘れられようとしています。また、核家族化が進み、家庭における「語り部」の機能が希薄になっているといえます。

折しも、2011年3月、東北を襲った大震災では、過去の災害から語り継がれてきたことが、多くの人の命を救いました。知恵や経験、歴史や文化を語り継ぐことの大切さが今、改めて問われようとしています。

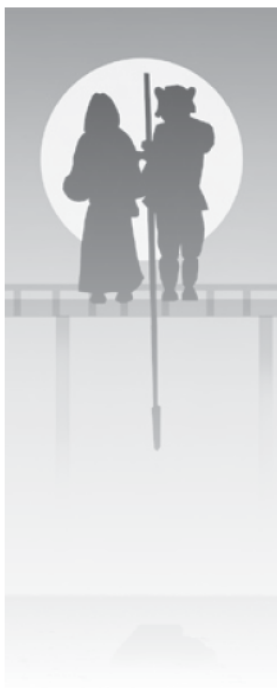
### まちの魅力を再発見

稗田阿礼が古代の様々な伝承を『語る』ことで後世に遺した『古事記』。この壮大なスケールで、ロマンに満ちた古事記の素晴らしさを、もっと多くの人に知ってもらい、ここ大和郡山がそんな古事記の発祥の地であることを地域の誇りとし、まちの魅力を再発見となることをめざします。

### 新たな物語りが今ここに始まる

全国には、神話の舞台などの古事記ゆかりの地は数多く存在します。しかし、古事記編さんという史実に関わる地は、太安万侶ゆかりの多神社がある同じ奈良県磯城郡田原本町と、ここ大和郡山だけではないでしょうか。阿礼の残した偉業「語る」こと「語り継ぐ」ことの大切さを全国へ発信することで、「語り部の里 大和郡山」を広めていきます。

1  
3  
0  
0  
年  
紀



(平成23年12月1日号掲載)

おわりに・・・



## 語り部の里 大和郡山

2012年 古事記 1300年

「人間ってすごいじゃないか。語り継ごうよ、語り部の里から。」をテーマに様々なイベントを進めてきましたが、どのイベントにもたくさんの方に参加いただくことができました。また、定員をオーバーし、申し訳ないことに、参加をお断りしなければならないこともありました。そのようなイベントを通じ、また広報紙などを通じ、多くのみなさまに古事記のおもしろさ、語ること・語り継ぐことの大切さをお伝えすることができたことと実感しています。そして、それぞれの方が、現代社会のあり方や、現在（いま）を生きる私たちがなくしてしまったことを改めて考え直す機会となったのではないのでしょうか。

また、人と人、地域と地域がつながるきっかけにもなりました。田原本町と大和郡山市の観光ボランティアガイドクラブが合同で企画運営された「古事記の里ウォーク&イベント」。鳥根県雲南市民劇団と大和郡山市市民劇団「古事語り部座」による古事記を題材にした作品の上演と交流。たくさんの方との出会いがあり、そして今も交流が続いています。

大和郡山が、そのような古事記の発祥の地であることを地域の誇りとし、今後も様々な機会を通じ、語り部の里大和郡山より「語ること、語り継ぐことの大切さ」を発信していただければと思います。

古事記 1300年 紀事業実行委員会

委員長 橋本 弘隆



**古事記1300年紀事業実行委員会事務局**

〒639-1198 大和郡山市北郡山町248-4

大和郡山市役所 企画政策課

TEL : 0743-53-1151 (内線246)

FAX : 0743-53-1049

E-mail : kojiki@kcn.ne.jp



|||||



|||||



|||||



|||||



|||||